テリトーリオから読み解く都市農地の可能性

法政大学　陣内秀信

1

「地方の風景や風土が、まるでファストフードのように全国一律の均質なものになりつつあ.る。そうした現象を私は「**ファスト風土**」という言葉で表現した。」　三浦展

中心の喪失：都心は魅力を失う → 都市の解体 urbanity 喪失
境界の喪失：田園郊外の沿道開発 → 田園の喪失 rurality 喪失

都市の近代化で失ったもの
- 自然との対話
- 歴史との対話
- 人の関係（コミュニティ）

アーバン、ルーラルの価値の再生

⇒ 「イタリアから学ぶ脱ファスト風土」

テリトーリオの再評価　都市と田園のつながりの復権
農村の多機能化　都市の輝きの再生
＜食＞ が 農村と都市をつなぐ

2

今、真の都市再生とは?ー自然・歴史・コモンズから

公衆衛生と都市計画　ランドスケープ　エコロジー
都市と田園　テリトーリオ　原風景　原っぱ　歴史的環境
凸凹地形　流域　所有と共有（コモンズ）
都市組織　空間人類学
オープンスペース　ヴォイド
開発から再生へ　リノヴェーション
ポスト工業化・ポスト近代　量から質へ　生活感
脱都市/反都市　スローシティー　コンパクト・シティ　アーバン/ルーラル　アグロトゥリズモ
文化的景観　アルベルゴディフーゾ　まちやど　ボルゴ　パエーゼ
歩行者空間　回遊性　15分コミュニティ論　商店街
地産地消　キロメトロ・ゼロ　エノガストロノミーア
都市農地

3

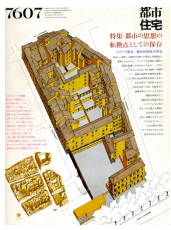
イタリアは都市の国　その歴史的資産を活かす　1970年代から

チェントロ・ストリコの保存⇒チェントロ・ストリコの再生へ

保存は1960年代から

ルッカ(トスカーナ)

⇒ 再生の動き
1970年代



ボローニャが手本に

4

80年代のポスト・モダン都市　文化力

イタリア　輝きを取り戻す　中小都市が主役　Veneto

産業の三角地帯⇒第三のイタリア、大企業⇒中小企業（家族経営）
ファッション、デザイン、さらに食文化へ
量から質へ　創造性　美意識・感性
地域の資産を活かしながらイタリアらしさを発信

家に住むく街に住む　という感覚
街路、広場、水路、城壁上のプロムナード：コモンズ

トレヴィーゾ

1993刊行

5

6

1991年のヴェネト調査より

田園/農村の再評価の動向

レストランも田園に

資産を活かす
田園の自然+農家建築

トレヴィーゾ
高級レストラン・エルトゥラ
農場改装の店

7

1980年代
歴史都市の再評価とともに

田園の再評価が始まる

北伊ヴェネト地方
別荘＝農場 ⇒ホテルに転用

8

アグリトゥリズモの成功

古い建物の活用・地産地消が条件

9

10

80年代　同時に田園の再評価へ

・並行して、高度経済成長期に犠牲になり、無視されていた田園に目が向いた。
・グローバリゼーションによって崩れた地産地消のマーケットを、取り戻す。
・田園と都市の結びつきを本来の姿に回復、テリトーリオの概念が重要に
・景観を「パエサッジョ」と呼ぶ。1985年景観法
・1992年：ユネスコ 世界遺産に「文化的景観」

Vicenza とその周辺

Pienza

11

1980年代以後のイタリア 関心の対象が都市から田園に広がった

centro storico ⇒paesaggio +territorio (historic center ⇒ landscape+territory)

テリトーリオとは?

土地や土壌、景観、歴史、文化、伝統、地球共同体等々のさまざまな側面を合わせもつ一体のもの」(B.スタニーシャ)

小さな町のまわりに広がるテリトーリオのイメージ(前近代/工業化前)

The town and surrounding countryside were closely connected
町とまわりの田園とが密接に結びついていた

近代の都市化/工業化によってテリトーリオの一体性が失われる

忘れられたテリトーリオの意味、価値を再発見・再評価する必要がある

住民の間にコモンセンスとして存在したテリトーリオを可視化する必要性

小さな町周辺のテリトーリオの図式
by Armando Montanari

12

80年代　同時に田園の再評価へ　イタリアの田園は美しい　多様な風景

・田園と都市の結びつきを本来の姿に回復、テリトーリオの概念が重要に
・景観を「パエサッジョ」と呼ぶ。
・90年代：ユネスコ「文化的景観」

景観法　1985年
アグリツリズモ法1985年
スローフード　1986年　文明批評・ライフスタイルの革命
チッタ・スロー 1999年　都市の在り方を根本から問う

2009年

2000年

2010年

13

■何故、田園/農村が注目されるようになったのか？

都市文明が上りつめた後の新たな時代の展開
スローフード、スローシティ（チッタ・スロー）

もともとイタリアでは、都市と農村が有機的な繋がり

近代化＝工業化がそれを壊した
脱近代＝脱工業化でそれが復権　中小都市が主役

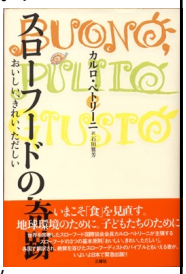
農村：第一次産業としての農業の場、生産性低くイメージ悪い
⇨ 農地/田園は第一次産業の場⇒多様な役割・価値

1980年代半ば、2000年代～　様々な新しい価値が生まれる
環境、景観、癒やし、ヴァカンス

新たな経済基盤　付加価値の高い農業、牧畜、ルーラルツリズム

EUの農業政策の転換　量から質へ　環境保全重視
有機農業振興と並んで、地理的表示制度を通じた農業保護と輸出協力獲得の必要性
1985年に環境保全に転換　非効率な農業も生かされる
EU全体で1992年　GI制度の導入。

新たな文明　スローフード運動　生物多様性　絶滅種の復活



14

何でもない田園風景が世界遺産に

都市文明からの脱却
＜ルーラル＞の価値評価

小さな町や村への関心、保存・再生へ

トスカーナ、オルチャ渓谷
5つの小さな街comuneが連携して
世界遺産登録実現　2004

個性あるテリトーリオを表現

15

上：　都市と田園における善政の効果（1337年 A.ロレンツェッティ）
下：　今日のピエンツァのチェントロ・ストリコと田園

16

トスカーナ　オルチャ渓谷

Toscana　Val d' Orcia

巡礼の街道が街を結ぶ

5つの自治体が連携して世界遺産に
典型的な＜田園＋都市＞の風景⇒文化的景観

テリトーリオの自然、歴史の共通性＝アイデンティティ
大きなシナリオ/物語＝ナラティブ

TOSCANA
Val d'Orcia

共通のアイデンティティを持つテリトーリオをどう描くか

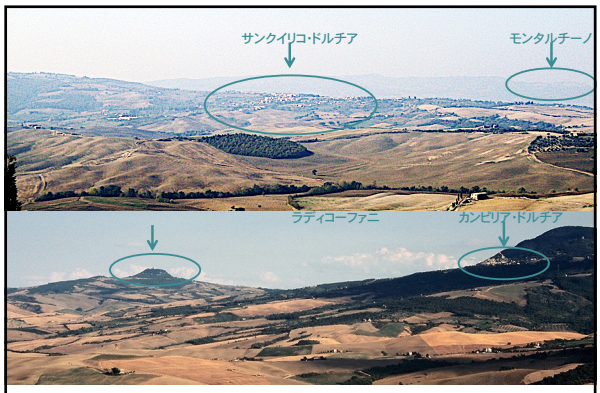
17

オルチャ渓谷

1951～71年の人口減少、急速 40%の人口流出
田園の過疎化、深刻。定住人口の6割が農業を捨てる。
2000年代に入って微減に。

再生への3段階
・1段階 1984-1999
産業廃棄汚物処理場の建設候補地に⇒住民の阻止への動き
5つのコムーネ連携
正反対の「オルチャ渓谷芸術的自然公園」設立を掲げる
・2段階 1999-2004
公園管理団体「オルチャ渓谷有限会社」の地域再生に向けた取り組み
観光企画、農業振興、文化活動、環境保護、地域ブランドの創出
世界遺産の登録に成功
・3段階 2004-現在
世界遺産登録によって可視化したテリトーリオの魅力アップ

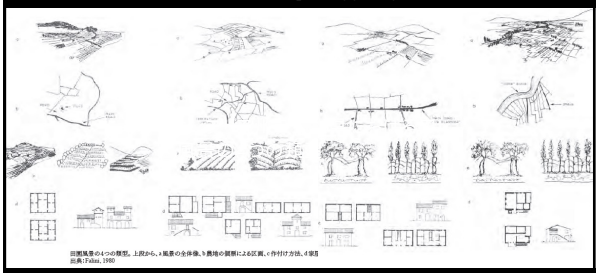
18



オルチア渓谷に点在する街と建造物
見る一見られるの関係にあるチェントロ・ストリコ
ピエンツァよりサンクイリコ・ドルチャとモンタルチーノ、ラディコーファニとカンピリア・ドルチアを臨む

19

P.ファリーニによる田園景観分析の方法
Metodo di analisi del paesaggio agricolo (P.Falini)



P.Falini, ウンブリア州テルニ県における田園景観の4つの類型
Tipologia del paesaggio agricolo nella Provincia di Terni

20

農業景観のタイポロジー
Sereni, E.: *Storia del paesaggio agrario italiano*, Bari, Laterza, 1961.

Campo chiuso　　中世の時代から維持されてきた囲い型農地「カンポ・キウゾ」

21

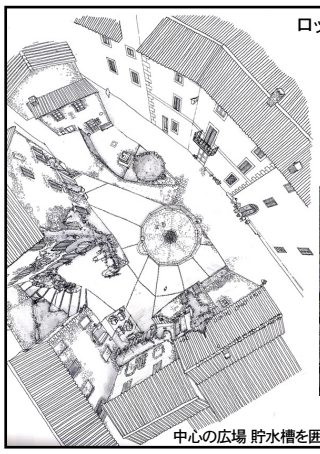
オリーブ林の景観

中世
不規則に植えられたオリーブの木

ルネサンス以後
幾何学的配列で植えられたオリーブ林

22

ロッカ・ドルチャ集落の内部



領主の館 ファットリア
周辺の田園との密接な関係
人々の活動の場
記憶、思い出

奥：領主の館 ファットリア
手前：農業施設棟がレストラン+B&Bに

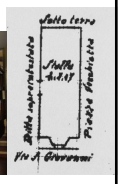
中心の広場 貯水槽を囲む

23

■歴史的な小都市の活性化の現状

歴史的建物の文化・観光のための再利用　リノベーション技術

CaRocca d'Orcia　農家⇒B&B



Cstiglione d'Orcia 農家⇒セカンドハウス

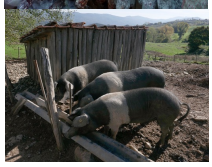
24

ポデーレ(農場)
⇒アグリトゥリズモ

Le Traverse
ピエンツァ郊外

25

エノガストロノミーア
(ワイン+食文化)が
地域起こしのキーワード



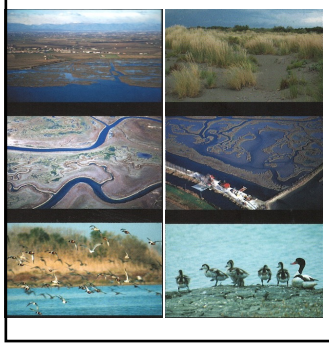
チンタセネーゼ(シエナ地方の豚)

26

27

エコシティ　水と共生　環境共生
水都⇒水のテリトーリオ　　ラグーナへ

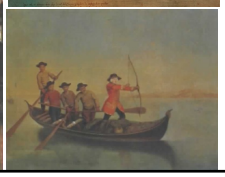
1966年の大水害後　　都市の近代的開発の反省
1990年代～：ラグーナの風景・環境への関心増大



28

ラグーナの再評価
新たな視点での研究

「ヴェネツィアでの水と
食べ物」
D.Calabi 展覧会



Caccia in Laguna

左:Vittore Carpaccio (コッレール蔵)
右下:18世紀

29

サンテラズモ島　農場(ブドウ畑など青果供給)

S.Erasmo Caniato G. , *La laguna di Venezia*, pp.154-155.

S.Erasmo、16世紀

サンテラズモのカルチョーフィ畑(カストラウーラ)

30

1950-60年代　La Barena
リアルト市場に野菜・果物を運ぶ様子

2014年　La Barena
アグリトゥーリズモ

31

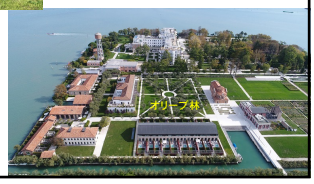
32

ラグーナでワインとオリーブ・オイルを生産→ブランド化

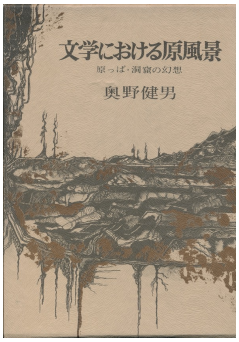
Sacca Sessola
JW MARRIOTT
VENICE RESORT&SPA

石油倉庫→隔離病棟　→超高級ホテル

地産地消を取り戻す



33



我々にとって「原風景」の意味とは

奥野氏との出会い
恵比寿の原風景
「原っぱ」他

34

大きく広がる水田風景

春先には一面美しいレンゲ畑

水田
ザリガニ　オタマジャクシ
→
校庭の造成途中
殿様バッタ・イナゴを
追いかける

高校の校庭で野外映画

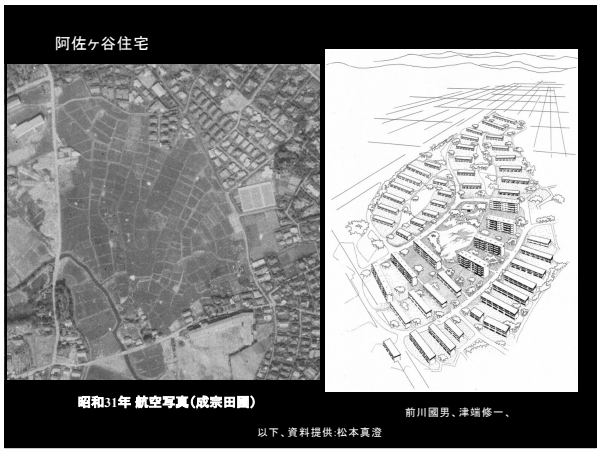
1.
善福寺川・都立杉並高校遠望
成田西4丁目15番付近　昭和30年代
辻毅氏提供

（図録　『レンズの記憶ー杉並、あの時、あの場所ー』より）

35

1963年（昭和38年）の航空写真による須賀神社と成宗弁天池の姿。

36



37

客員教授 Olimpia Niglio氏
との会話(5/28)から大きなヒント

法政大学向坂逸郎記念国際交流会館
中野区上鷺ノ宮5-18-11 に滞在

ルーラルな雰囲気を感じる
もちろんポジティブな意味で

宅地化・都市化しても
家が建て込んでも
エッセンスが受け継がれる

自然・緑、隙間、空地
農家から展開した邸宅も
実際に農地も多い

都市文明/産業化社会を脱し
次のステージへ移行するのに
大きなアドヴァンテージ・資産

スローシティ(新しい日常生活)
自然と都市/人工の融合
土地・人間・コミュニティ

38

中野区のなかのムラ的な風景

古そうな祠

緑地・空地・農地・樹木・祠:
地域のコモンズ
テリトーリオのアイデンティティ

39

杉並区（井草）
「農福連携農園 すぎのこ農園」
画期的な試み

農地/田園
第一次産業の場
⇒多様な役割・価値

環境保全、景観、生物多様性
健康、リクレーション、余暇、
エノガストロノミーア、歓び、
精神的価値、教育
地域交流、防災スペース
さらに福祉と連携

コモンズとしての役割

40

杉並区井草　すぎのこ農園の周辺

41

42

Casale di Teverolaccio　放置された歴史的な建造物、施設、空間の再生
社会農園：退職後の賃貸住宅に住む階層向け
社会包摂的な活動

43

マッセリア
街道沿いの防御を伴う農業拠点

目下、修復再生中

史料によると、12世紀には存在確認　Villa Tyburolae Sancti Sossiiの名前
絵地図上は、1615年(Mario Cartaroの地図)に初めて登場
1616年、Campaniae Felicis Typusの地図に、Trerola San Sossioの名で

元々：アラゴン時代：　masseria 小麦、ワイン, 防御torre 街道沿いの重要地
⇒17世紀　Filomerino家が取得　fiera+mercato機能、経済効果

44

私の土地は価値がある

建物
土地の再生

200年前
Campania felix
肥沃な平野だった

荒廃から再生へ
1950-80　貧しい人達が住んだ
1980頃から再生へ
Museo Territorio
Lega ambientale
⇒Comune
Tipescheria レストラン
Orto sociale 2010-12 年

45

低所得者層の退職者向け社会農園　インクルーシブ(社会包摂的)な考え方

46

2022年3月刊行

2024年3月刊行

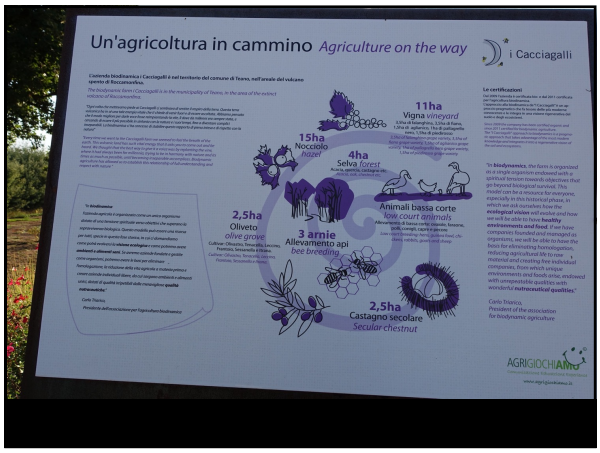
47

ナポリ近郊の
農村地域

Cacciagalli
アグリトゥリズモ

Teano

48



49

50

朝食のホール　　寝室

51

自然な池

52

53

仮設市場の重要性

旧市街の外に　ウィークリー・マーケット

車に仕込んだテントで仮設空間が出現

地産地消
キロメトロ・ゼロ　エノガストロノミーアを支える

実はローマでもキロメトロ・ゼロの発想強まる
大都市の内部にルーラルなものが入り込む
スローシティ化

豊富な野菜・果物　周辺農村から直接

54

55

56

57

58

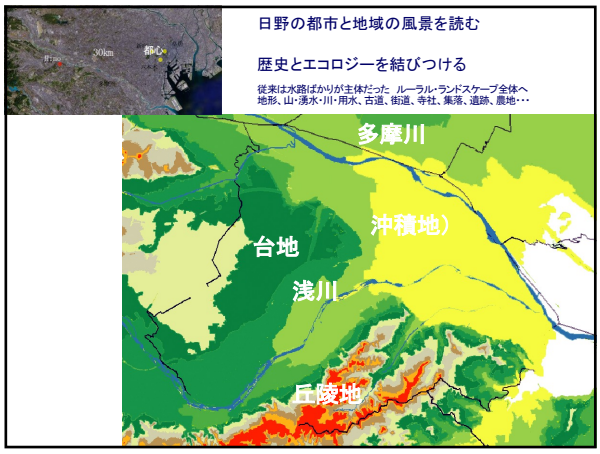
59

60

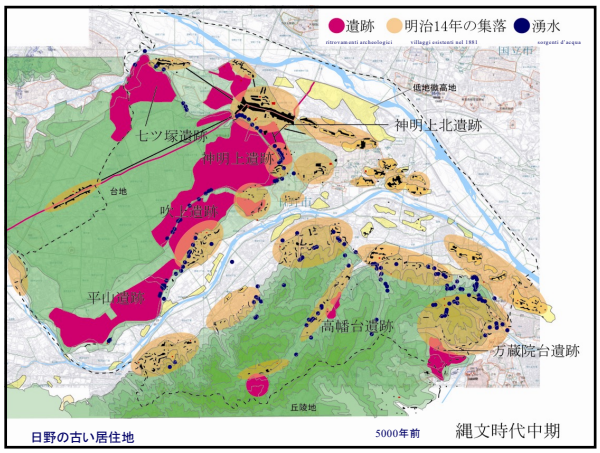
61

62

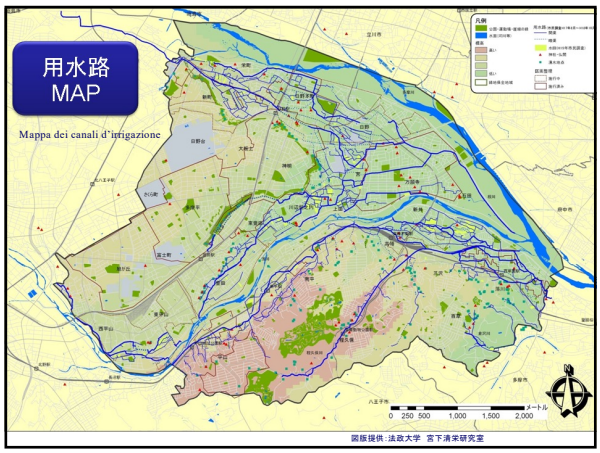
63



64

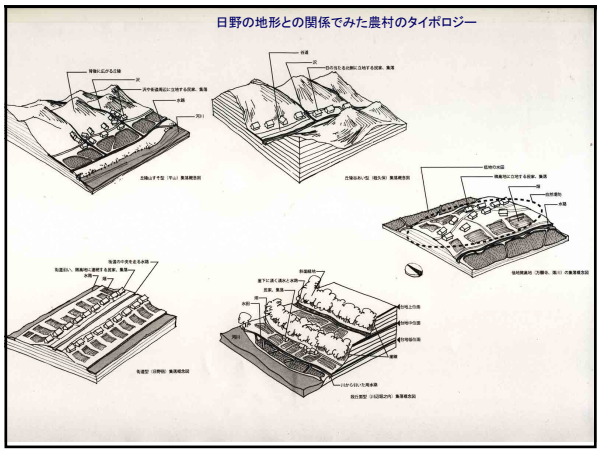


65



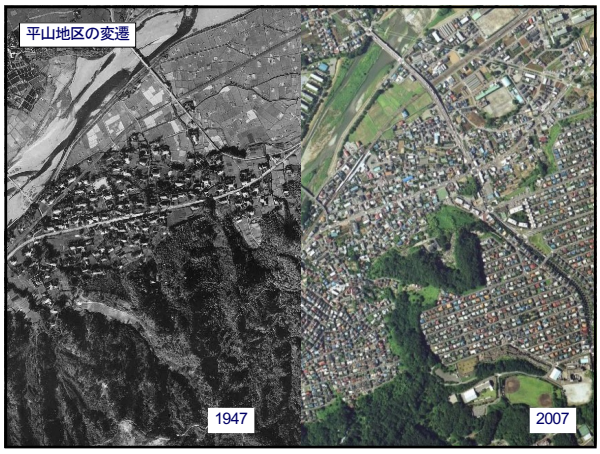
66

67

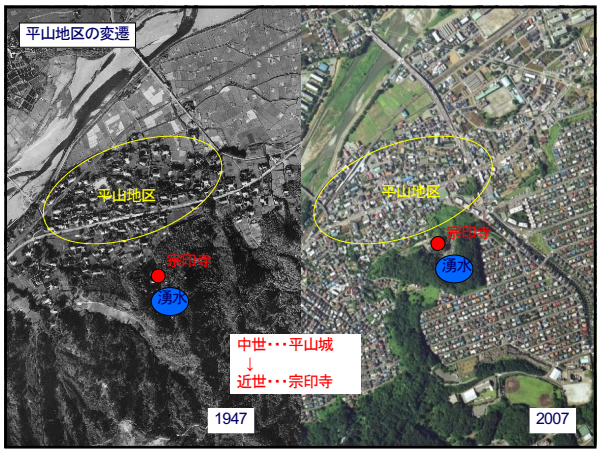


68

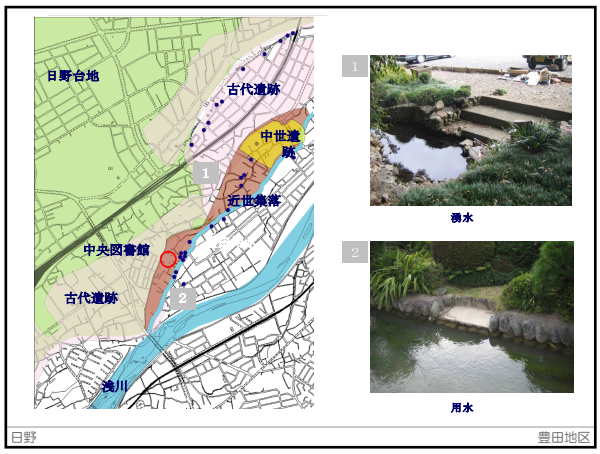
69



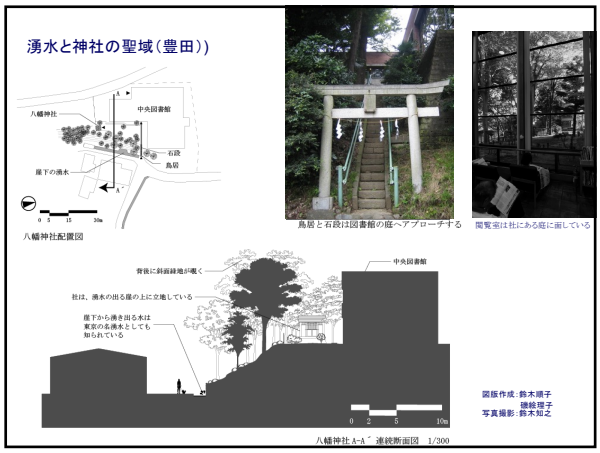
70



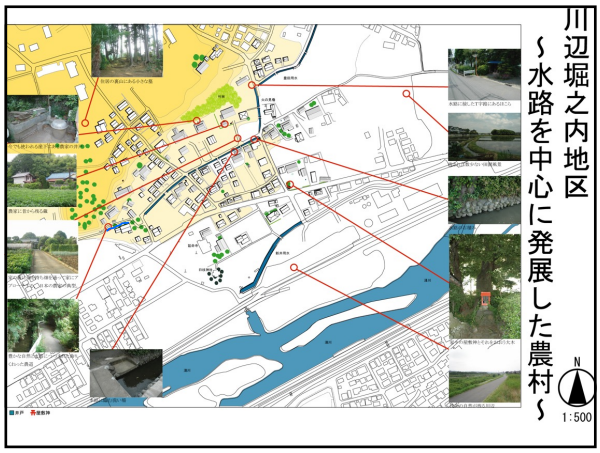
71



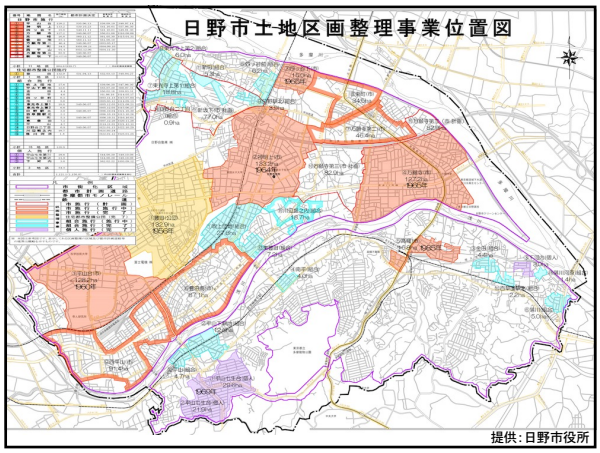
72



73

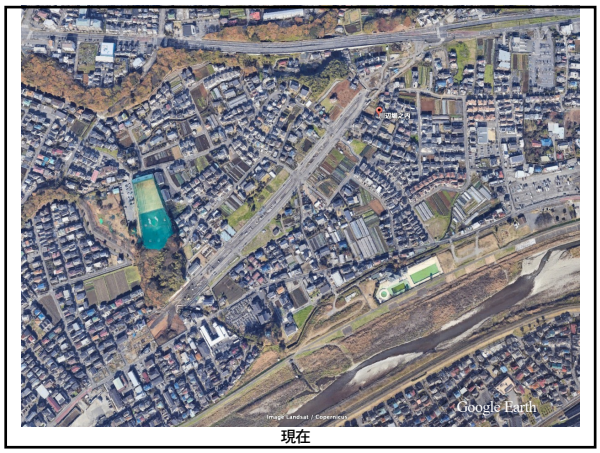


74



75

76



77

78

日野市 新井地区　せせらぎ農園

http://shinsenhino.com/archives/weekly/090630100451.php

代表:佐藤美千代　生ゴミ回収から

79

Paola Falini教授（ローマ大）の視察　コメント
「ユニークで素晴らしい田園都市だ」
農地のマダラ構造というより、居住地の間に農地の自然・緑・水が多く分散

新しい環境の時代にフィットした田園都市
「水の郷」日野　⇒　水都日野へ

80

東京にも都市農業　地産地消　キロメトロ・ゼロの動き　国立

81

国立

田植えする谷保の人々／1960年代
「写真でみる国立」（国立郷土文化館、2002.10）より転載

撮影 鈴木知之

82

谷保地区

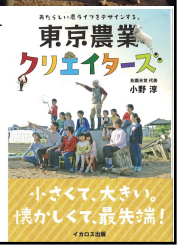
地形・宗教施設・城館・湧水・水路

83

くにたちはたけんぼ　　アーバンエリア近くの多目的・多機能農園

都市農業へのチャレンジ

小野淳氏 リーダー

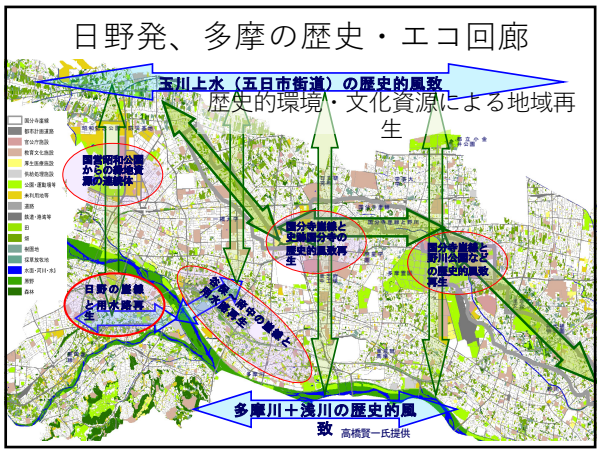


都内では世田谷区、練馬区、国立市が熱心

84

85

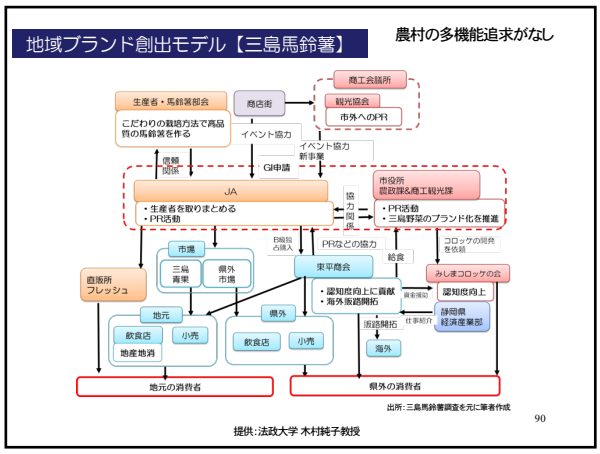
86



87

88

89



90

地域ブランド創出モデル【三島馬鈴薯】

【みしまコロッケの会】

写真：みしまコロッケの会認定の冷凍品
2017年10月26日筆者撮影

写真：駅中で見にする観覧ツール
2017年10月26日筆者撮影

写真：全国規模のイベント
2017年10月26日筆者撮影

1年にわずか2か月間だけの出荷時期以外もみしまコロッケによって消費者は三島馬鈴薯に接触→三島馬鈴薯の町というイメージの浸透

提供:法政大学 木村純子教授

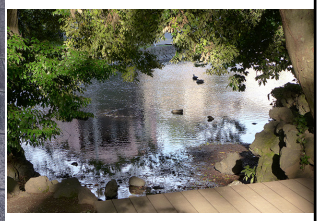
91

一方で、別の観光プロモーション 富士山の湧水が流れる 東海道の宿場町

源兵衛川 https://www.city.mishima.shizuoka.jp/cp/yusui/index.html#trad

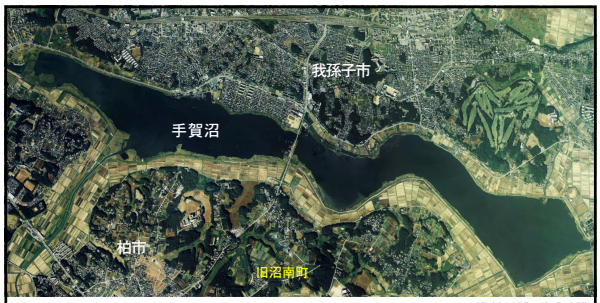
92

三島市立公園楽寿園



湧水の一つ 白滝公園と桜川

93



Copyright © 地図・空中写真閲覧サービス 国土地理院

手賀沼テリトーリオ構想

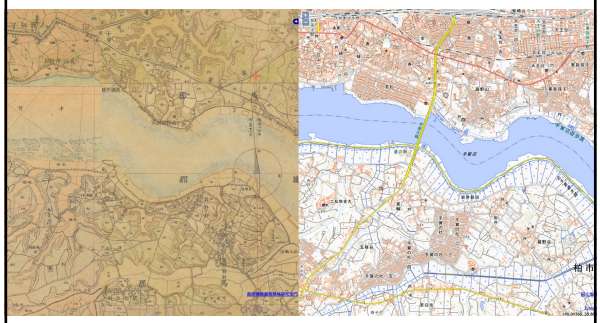
かつては海　利根川東遷事業　江戸への物流経由地　手賀沼の魚と鳥が江戸の食卓へ
戦後の汚染でイメージダウン　水質改善で魅力と誇りを取り戻している　手賀沼が豊かな農を育む

資産が多い」周辺に貝塚・古墳、山城、史跡、伝統　　テリトーリオのアイデンティティ強いはず

94

川瀬巴水『手賀沼』(1930年)　国会図書館 デジタルコレクション

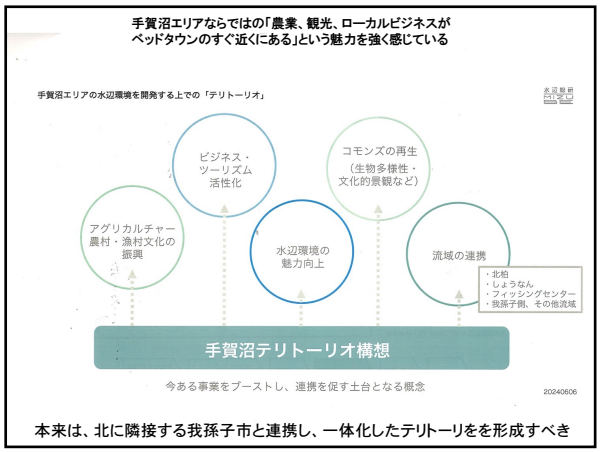
95



関東平野迅速測図 1880年代

現在：昭和21年(1946)からの干拓事業で
水田が広がった

96

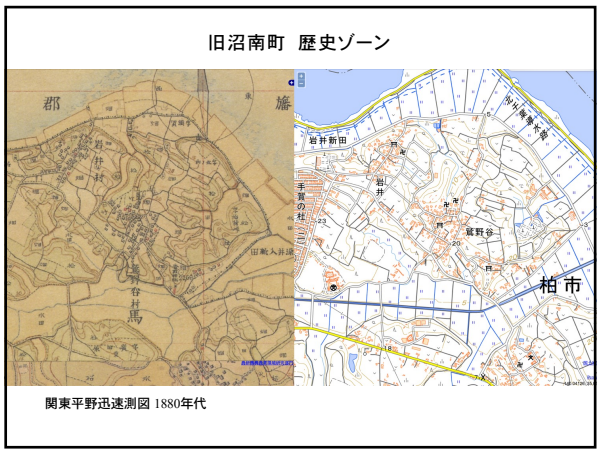


97

98

99

100



101

102

103

104

105

106

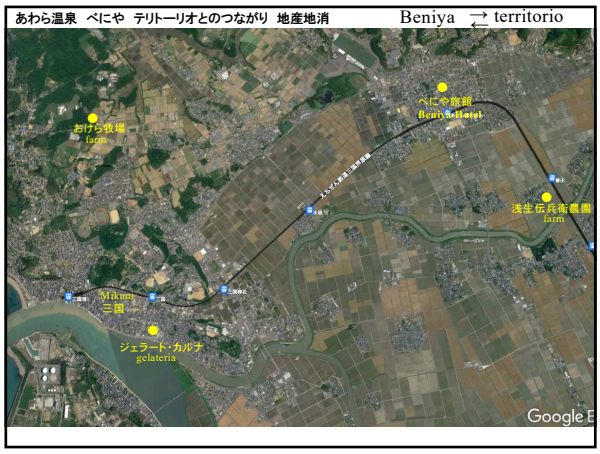
107

108

109

110

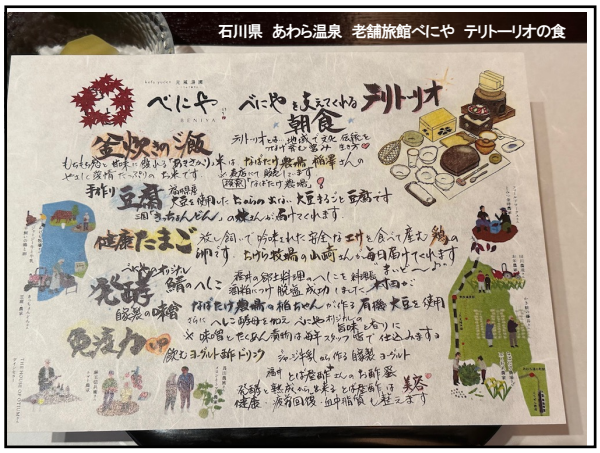
111



112

113

114



115

116

テリトーリオとは?

都市と農村の関係
urbanista→ territorialista
テリトーリオ学派

Alberto Magnaghi

テリトーリオは「共有資産」beni comuniの最たるものです。
大中小の都市、集落、村落、農林業、環境システム、都市と農村のインフラストラクチャーから構成され、その資質、個性、美しさは、歴史を通じて蓄積された人間の居住と環境とが共に進化した結果であり、まさに生き物のような存在である。
土地、山、都市、地域の社会経済システムといった「テリトリーへの回帰」とは、私たちが経験している深刻な地球規模の生態学的危機にさえ戦略的に対処することが可能な方法で、「人間の環境」としての空間の生産に対処するためのルールを再発見することを意味するのです。

2020年

117